座間市立相武台東小学校　　ＮＯ.28　　2023.11.13（月）

校長室だより

校長　山﨑　聡子

互恵関係を大切に

「当番ではないけれど，窓をしめよう」と言って，廊下の窓や教室の窓を閉めて鍵をきちんとかけている子供の姿がありました。やり忘れてしまう友達のフォローをしてくれていました。また，さようならの挨拶後に，掃除道具入れを開ける子がいたので，様子を見ていると，箒とちりとりを取りを出して教室の掃除を始めました。「掃除係なのかな？」と聴くと「違うよ」という答えが返ってきました。掃除がない日のためゴミが気になったようで，自ら掃除をしようと動いてくれていました。

人は一人で生きているのではなく，多くの力の支えの中で生かされていると考えます。子供が見せた動きの中にもそのことが表れています。窓閉めのことでいえば，当番だった子供は，気付いた友達によって支えられているし，放課後校舎を見回る用務員さんや先生たちの力にもつながっています。また，自主的な掃除によって，次の日の朝きれいな教室に迎えられれば，みんなが気持ちよく過ごせることにつながっていきます。私たちの日常生活の中には，ちょっとした動きが多くの人たちとつながり，力になっている場面がたくさんあると思います。支え合いがお互いの中におこっていることを知り，感謝し合うことを大切にしていきたいと，子供が見せてくれたすてきな動きをとおして思いました。

授業も子供たちの支え合いの中で充実していきます。「お話の作者になろう」という単元で，お話作りをしている国語の授業での出来事です。絵を見ながらお話を考えていくのですが，考えた内容を発表する友達に「頑張れ」という応援の言葉があったり，教師からも「皆がついてるよ」と温かな言葉かけもあったりして，応援された子供は笑顔になり，自信をもって発表していました。また，発表するどの友達に対しても，一生懸命聴こうとする姿や「いいと思います」等の相手の考えを認めていく反応が常にあり，温かな空気で満たされた中で授業が行われていました。学習に対する意欲も高まっていきました。

他の教室でも同じ場面に出あいます。座間市の野菜の良さを多くの人に知ってもらおうとポスター作りをした社会の授業では友達からのアドバイスを受け，再度自分のポスターを見直す学習をしていました。お互いのアドバイスの仕方がとても優しく，やり取りを聴いている同じグループの友達も優しい表情になっていきます。また，友達からのアドバイスを受け止めることができるので自分の見方や考え方の広がりにもつながり学習の質も高まっていきました。

子供たちを見ていて思うことは，支えてもらった側と支えた側，両者がすてきな表情を見せるだけでなく，その場にいて様子を見たり，聴いたりしている他の子供たちの表情も柔らかく安心したものになっていくことです。また，良好な関係性の中で活動することが，新たな力となり，もつ力を何倍も発揮することにつながっていくことです。子供たち一人一人が，つながりあってよりよく成長できるよう，温かな関係性を築くことを大切にしたいと思います。